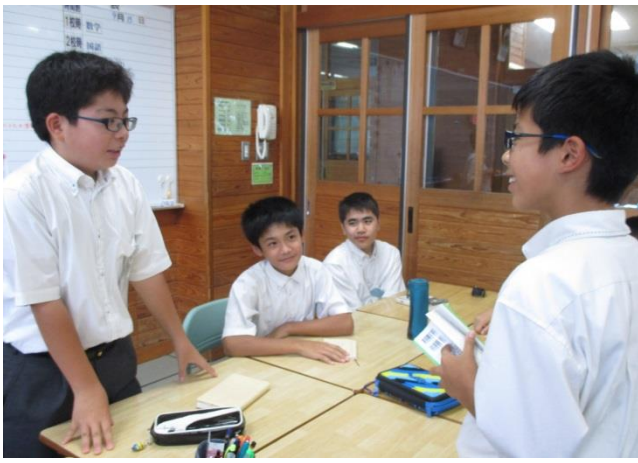


第6回ビブリオバトル

今年度も、宮崎学園中学校ではビブリオバトルが開催されました。ビブリオバトルとは、それぞれが選んだ本の面白さを発表し合い、一番読みたくなった本を決めるというものです。知的書評合戦とも評され、毎年白熱した戦いが繰り広げられています。今年度は9月14日に学級一次予選（班牙選）、21日に学級二次予選（学級代表決定戦）を行いました。

●学級一次予選では、班に分かれて全員が発表を行いました。それぞれが5分間の持ち時間をいっぱい使って、本の魅力を伝えていきます。1年生は初めてのビブリオバトルに緊張しながらも、一生懸命に発表することができていました。2、3年生はさすがに表現力も高く、聞き手のことを考えた発表に感心させられました。



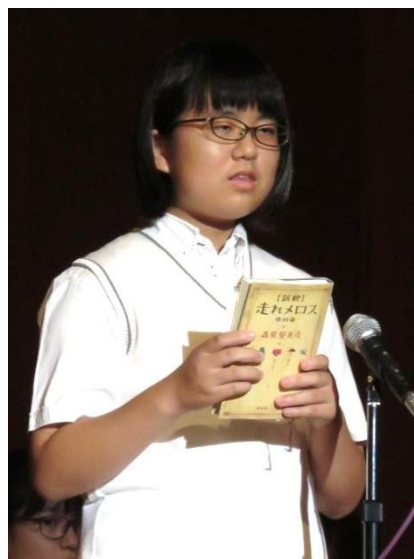
●学級二次予選では、各班の代表者が学級代表の座をかけて戦いました。学級全体での発表になるので、声の大きさや表情、視線の動かし方など難しい点も多いのですが、堂々とした発表はさすがのひとことでした。中でも、やはり3年生の発表はレベルが高く、「みんな上手なので、代表が一人しか選べないのがもったいないくらいです！」という声が生徒はもちろん、職員からも聞こえました。



●そして迎えた9月27日（水）、大坪記念ホールで学級代表者による全校決勝戦が行われました。図書委員会はこの日のために、昼休みや放課後も使って準備をしてきています。運営やタイムキーパーの他、司会も図書委員の2年生が務めてくれました。



当日は図書司書の先生方や校長先生まで駆けつけてくださいました。そこに大きなホールでの発表というプレッシャーも加わり、予選を勝ち抜いてきた代表者たちも、発表前はさすがに緊張しているようでした。しかし、いざ発表が始まると、6名の工夫された発表やその表現力に会場全体が引き込まれていきます。



発表後には質疑応答も行われます。本と出合ったきっかけや、印象的な場面など、発表者に聞いてみたいことを自由に質問します。この時間もビブリオバトルの醍醐味の一つです。



後半は図書委員会による発表から始まりました。図書館での貸し出しの状況を調査し、中学生の読書に関する現状とこれからについて、分かりやすく発表してくれました。漫画が原作のものや、中学生向けの本の貸し出しが多いため、本の質を上げていくこと、そして様々なジャンルの本に挑戦していくことを提案してくれました。



では具体的に、どのような本を読めばよいのか。その悩みに応えるため、惜しくも各学級で2位となった6名のみなさんが、おすすめの本を紹介してくれました。2分という短い時間の中で、工夫を凝らして本のおもしろさを伝えてくれました。

また、先生方にも中学生におすすめの本を選んでいただき、コメントと共に図書委員が紹介をしました。



最後に校長先生より講評をいただきました。

図書委員が中心となって進めてくれた今回のビブリオバトル。発表する人はもちろん、それを聞く人も真剣に取り組み、大変有意義な時間になりました。

今回のビブリオバトルを終えて、

「読みたい本がありすぎて何から読もうか困ります！」

「代表者の読みたいと思わせる工夫がすごかったです！」

「来年こそは決勝に出ます！」

という嬉しい声がたくさん聞こえました。

朝の読書の時間にさっそく紹介されていた本を読んでいる姿も見かけます。

これからも多くの本と触れあい、より心を豊かにしていきしょう。